

## I 事業概況

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、患者さんの受診控えやコロナ感染者専用病棟の設置、病棟におけるクラスターの発生など、経営に大きく影響のあった一年でしたが、下記に報告するとおり、年度当初に掲げた「Vision TAKEDA-2020プロジェクト」を中心とする事業計画は着実に実行することができました。

### 1. 診療報酬改定への対応

診療報酬改定内容に即応できるよう、新年度に入る前から「KPI-2020」を策定して準備を進め、4月から地域医療体制確保加算（520点）の算定及び救急外来受診者に対する選定療養費の徴収を開始するとともに、5月からは早期栄養介入管理加算（400点）やADL維持向上等体制加算などを取得しました。

### 2. 働き方改革への対応

電子カルテシステムのログイン・ログアウト時刻と入退館時刻を突き合わせて、医師の労働時間を把握するとともに、医師業務のタスク・シフト／シェアが可能な業務について検討し、医師労働時間短縮計画を作成しました。また、看護職における2交替勤務制や勤務間インターバルの導入及び4週7休による外来診療時間の短縮を検討し、限定正職員制度を創設して有期雇用から無期雇用への転換を進めました。更には、時間単位有給休暇制度を導入するとともに、会議・委員会の開催時間を原則として45分間以内としました。これらにより国の進める働き方改革に対応しました。

### 3. 竹田リハビリテーション病院の建設

竹田リハビリテーション病院の病棟構成は、地域包括ケア病棟45床、回復期リハビリテーション病棟45床、医療療養病棟30床、介護医療院40床の合計160床とする計画です。また、新病院における各種施設・設備等の機能や配置などについて詳細に検討しました。この検討結果を受けて、2021年6月以降は基本設計及び実施設計に着手する予定です。

### 4. デイサービス施設、研修・宿泊施設の建設

前年度に開所した看多機「かをり」及び小多機「オレンジ」に隣接して、重度の利用者も安心して入浴できる機械浴槽を備えた「竹田ほほえみデイサービスセンター」を11月に新築移転し、介護・福祉事業所を山鹿地区に集約する竹田ケアタウン構想を更に一步実現させました。また、職員の増加や人間ドック受診者の要望などを受けて、研修・宿泊施設も建設しました。

### 5. 国際化への対応

ケア・アシスタントとしてベトナムから外国人技能実習第2期生4名を受け入れる予定でしたが、コロナの影響により入国時期が延期となりました。また、第3期生の募集及び面接・審査を実施し、7名を採用することといたしました。

### 6. ICT活用事業の推進

4月から救急室及び山鹿クリニックで開始したAIによる問診システムは、診断の精度向上とともに、医師や看護師などの業務効率化につながりました。また、2021年3月からの運用開始に向けて準備を進めていた、マイナンバーカードを健康保険証として利用する「オンライン資格確認」は、運用上の問題により10月以降に延期されることが厚労省から通知されましたが、本格運用の開始に向けて引き続き準備を進めて参ります。

### 7. 職員の採用

4月には、看護師やコ・メディカル職など100名超の正職員を採用するとともに、10月には次年度初期臨床研修医定員12名全員の採用を内定しました。また、大学医局との緊密な関係の維持により安定的に医師の派遣を受けるとともに、人材仲介会社による紹介や直接応募などにより、常勤医は外科や消化器科、泌尿器科など、全体で前年度期中平均比9.7名増加して135.1名となりました。

以上より、医業収益は前年度比774百万円（3.4%）減少して22,140百万円、医業費用は同1,118百万円（5.0%）増加して23,274百万円となりましたが、当期利益は61百万円を計上し、5期連続の黒字決算となりました。